

ますが、もっと広く周知していただき、市民が利用しやすい制度として、再度考えていただきたいと思います。

社会全体で仕事と家庭の両立支援を

石井 同世代の女性は子どもを授かったときに、仕事と家庭をどう両立していくかという悩みに直面しています。「仕事は続けたい、けれども子どもを面倒見てくれる親が近くにいない」といった場合、保育所に預けたとしても病気などのときには、やはり「自分が面倒を見ることになる」というジレンマがあるようです。

企業においても、出産を機に辞める女性を引き止めないことは、本人にとってみれば「会社に私は必要とされてなかったのかな」という気持ちになりますし、彼女たちが経験して得た仕事のノウハウというものは『財産』ですよ。人を育てるといことは何十年もかかりますし、すごい能力があるにもかかわらず、子育てをしながらでも働きたいと思っても、働いていない女性たちをみすみす手放すというのは、会社にとっても大きな損失だと思います。子育てをしながらでも安心して働ける会社や社会づくりというワークライフバランスをもっと考えていくと、日本全体がもっといい社会になると思います。

意識を変えることの難しさ

磨田 つんのでネット（風）には、男女共同参画を推進する団体や企業の女性グループ、天草信用金庫ウーマンネットワーク委員会など団体会員として19団体、個人会員が31人所属しています。それぞれの団体は、ふだんは講座や研修など特色ある活動を行いながら、つんのでネット（風）として事業を取り組むときは、協力をいただいています。昨年9月には映画「老親」の上映会をはじめ、今年2月には女性参政権運動に活躍された市川房枝氏のパネル展の開催、最近では北京JACという全国規模の大会が開催されたときに、天草へのサプライズツアー受け入れにも協力していただきました。

活動を通して感じることは、一つの事業を乗り越えたときに、役員や会員が「やって良かった、がんばって良かった、ありがとう」ということを口々に話されているとネットワークの大切さや、存在のありがたさなどを感じますし、それをどう次につなげていくかがカギだと思っています。ただ、ネットワークの中でも地域でも「意識を変えることの難しさ」というのは日々感じています。

池田さんはパートナーの入院を通して、大切なことに気づかれたのだと思います。男女共同参画社会を作っていくというのは

とはできません。やっぱりみずから動いて、行動に移すことで力がついていくと思います。

磨田 団体に所属する会員それぞれが、自分が目指したい姿というのがあると思うので、それに向かって活動を行う仕掛けづくりを考えていきたいと思っています。

自分の目標に向けて課題を解決していく活動であれば、皆さんも意識が高いと思いますので、同じ志を持った人々が小さくても深い交流を進めていくことが必要だと思います。今後も、会員募集の啓発や、多くの人が参加できる時間帯でのネットワーク会議なども考えていきたいと思っています。



丸田 父親の育児参加を促す活動、高齢者の男女共同参画を考える活動、企業での男女共同参画を進める活動などに、ターゲットを絞った活動というのは大切だと思っていますね。

石井 昨年11月に、内閣府男女共同参画局が主催する男女共同参画ヤングリーダー会議に参加しました。20歳代から40歳代の66人が、全国から集まりました。

自営業、主婦、介護経験者、会社員、NPO法人代表など、職業も多彩にとんだメンバーで、男女共同参画について語り合う会議でした。地域のリーダーとしてどんなやっていこうというよりも、大切なことだから学ぼうというメンバーが多かったのですが、「自分の体験から男女共同参画をこう進めたい」「男女共同参画というのは必要ではなく必然なんだ」という力強い言葉などもあり、すばらしい意見交換ができました。当時の男女共同参画担当大臣も、自分の子育て経験などを通して、男女共同参画の大切さを話されましたし、「各都道府県に同世代の同じ志を持ったメンバーがいて、コミュニケーションが取れるというのは、将来大きな財産になるよね」と時が経つのも忘れるくらい延々と話していました。本当にいい刺激になりましたね。

磨田さんの話の中に、ネットワークの大切さということもありましたが、いろいろな専門分野の人と出会えたことで、何か問題があったとき、あるいは知りたいことが



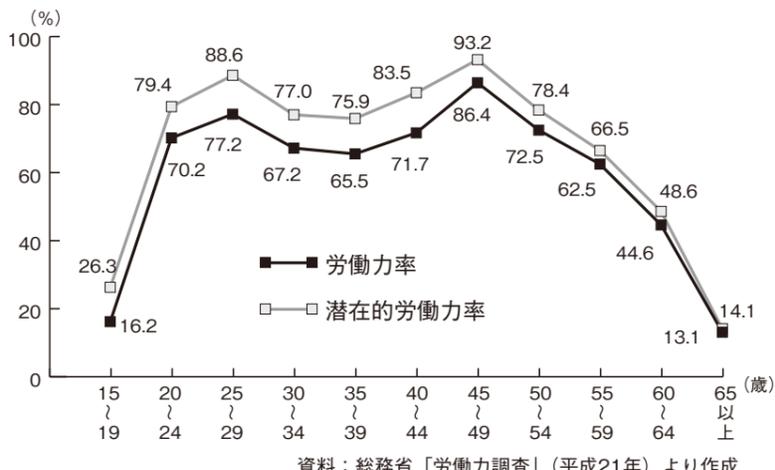
※市内の市立保育所（20カ所）、私立保育所（37カ所）における開所時間や入所年齢、障がい児保育、一時保育、休日保育などの特別保育事業は各保育所で異なります。各保育所または本庁・子育て支援課 ☎ 1111 内線1178へお尋ねください。

は、このような「気づき」を多くの人が持つということだと思います。市でも、男女共同参画についての講座やセミナーがたくさん実施されています。多くの人が参加し、身近なところにある問題に気づきを持っていただきたいと思いますね。

人は財産、仲間は力

石井 地域リーダーの研修終了後、参加者には「個人でもいいし、グループでもいいので何か一つ形づくりを」という宿題が課せられました。研修では、講座やセミナーといった聴講が多かったのですが、いざ自分が何かをやるとなると本当にたいへんです。でも学びだけでは、力をつけていくこ

◆表1：女性の年齢階級別潜在的労働力率



女性の労働力率は、年齢階級別にみると30歳代を底とするM字カーブを描き、結婚、出産、子育て期に就業を中断する女性が多くなっています。就業希望者を労働力人口に加えて算出した潜在的労働力率では、M字カーブの底は浅くなります。

あったとき、「あの人に聞こう」という人脈づくりができたことも大きな財産になりました。男女共同参画ということを飛び越え、人生の視野が広がった、あんな夜はなかったなと思います。その会議の中で「介護」について語った人がいらっしやいました。介護のたいへんさというものは、私たちの年代はピンとこないところもありますが、その人は男女共同参画を学んで、介護のたいへんさから救われたと話されていました。